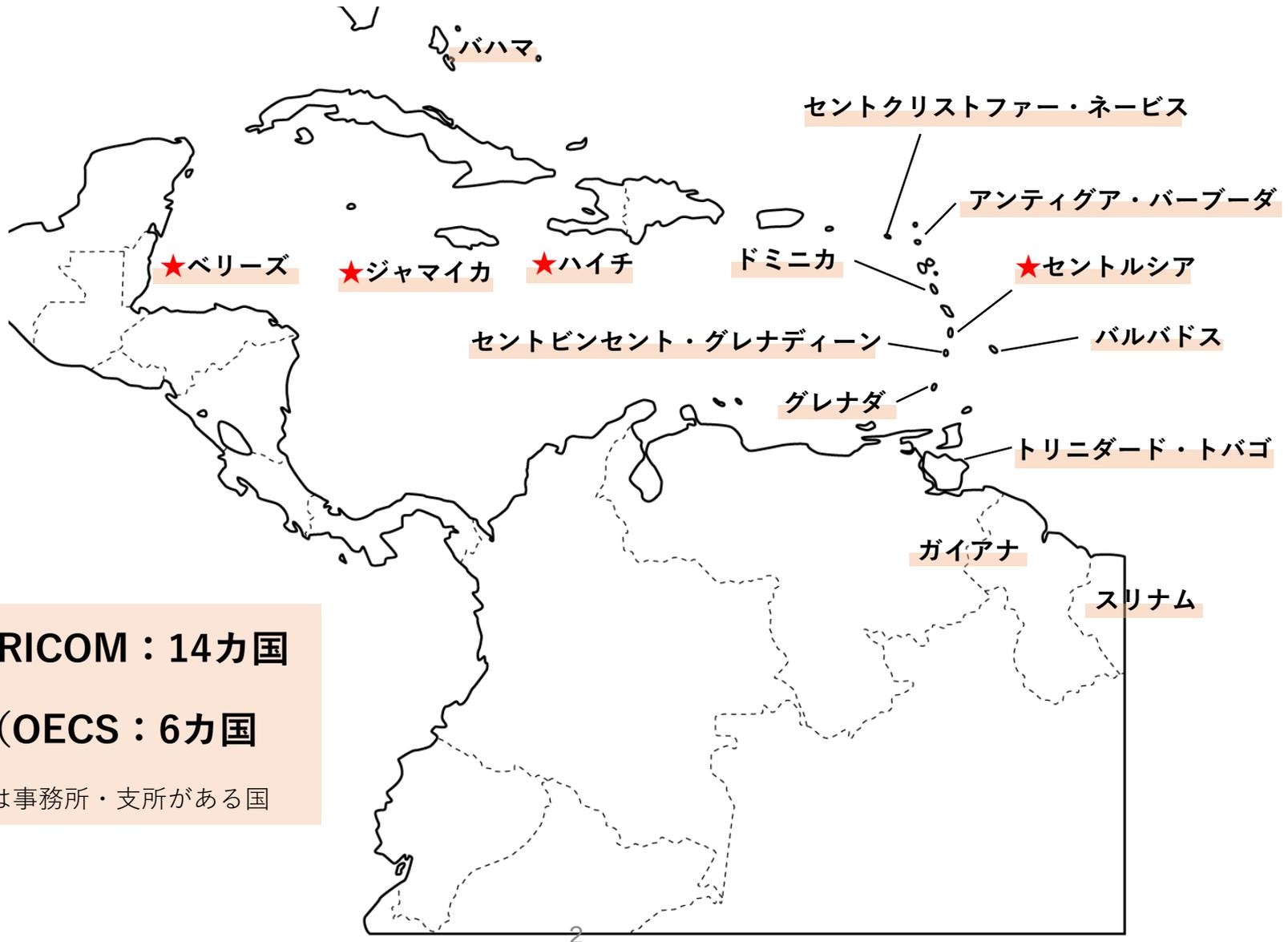


# CARICOM加盟国 国別分析ペーパー オープンディスカッション

2021年12月22日  
中南米部 中米・カリブ課

# CARICOM加盟国



CARICOM : 14カ国

(OECS : 6カ国)

★は事務所・支所がある国

## CARICOM

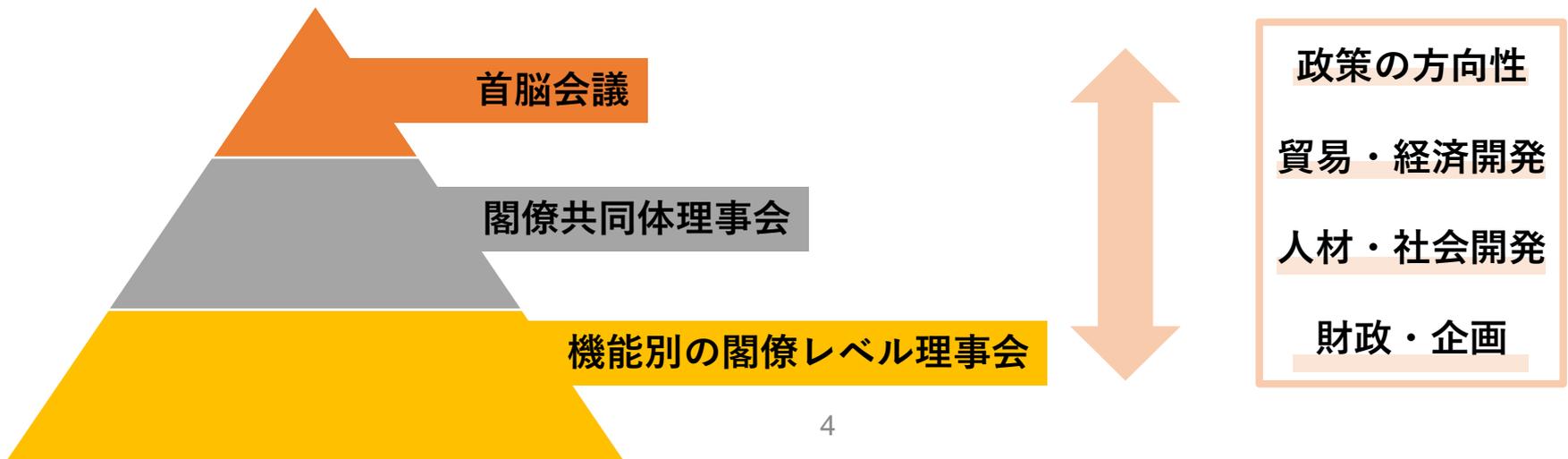
- 英名：Caribbean Community
- 和名：カリブ共同体（カリコム）

## 組織の目的

- 調和とバランスのとれた発展を促進するための「**加盟国間の経済及び貿易関係の調整と法制度の強化**」、「**持続的発展と経済的統合の継続及びそれらの利益の公平な分配**」、「**加盟国の経済的自立等を目的とした共同市場制度の設立**」により、加盟国の経済統合を目指す。
- 加盟国間の外交政策の調整を行う。
- 国民の利益となる共通のサービスや事業の効果的实施や、国民間の理解と、社会的・文化的・技術的発展の促進等を含む機能的な協力を行う。

## CARICOMの意思決定プロセス

- 最高意志決定機関は年に二度の**首脳会議**（The Conference of the Heads of Government）。
- 首脳会議による政策の方向性に従って経済統合、機能的な協力、外交政策といった分野におけるカリコムとしての戦略立案及び調整は**閣僚共同体理事会**（Community Council of Ministers）が行っている。
- その下に外交及び共同体関係、貿易・経済開発、人材・社会開発、財政・企画の機能別に**閣僚レベルの理事会**がそれぞれ設けられている。対外政策については、**外交・共同体関係理事会**（COFCOR）によって政策調整等が行われている。また、補助組織として法務、予算、中央銀行総裁の各委員会が置かれている。



## CARICOMの傘下機関

- CARICOMの傘下には「**共同体機関 (= Community Institutions)**」と「**準機関 (=Associate Institutions)**」の2種類の機関が合計28個存在している。
- それぞれの機関は対象とする分野課題や、提供しているスキームが異なり、CARICOM加盟国に対して、様々な技術支援や資金支援等を行っている。
- なお、個々の機関は独立した方針として機能を持ち、CARICOMの各機関が加盟国に対して提供しているサービスの調整と補完をするために、「共同体機関」と「準機関」のリーダーが協議する年次総会も実施されている。
- 2006年頃より「**CARICOM事務局**」への専門家派遣に加え、JICAはこれまで「**Caribbean Regional Fisheries Mechanism (CRFM)**」、「**Caribbean Disaster Emergency Management Agency (CDEMA)**」、「**Caribbean Public Health Agency (CARPHA)**」に対して、水産・防災・保健分野の技術協力プロジェクトを通じて、各機関へ支援を行ってきた。



# (参考) CARICOM傘下機関

## 実施中案件で関係のある機関

Caribbean Regional Fisheries Mechanism (CRFM)  
Caribbean Disaster Emergency Management Agency (CDEMA)  
Caribbean Public Health Agency (CARPHA)

## 過去に面談を行った機関/案件形成の話が出た機関

University of the West Indies (UWI)  
Caribbean Community Climate Change Centre (CCCCC)  
Caribbean Development Bank (CDB)

## C/Pになる可能性のある機関

Caribbean Center for Renewable Energy and Energy Efficiency (CCREEE)  
Caribbean Tourism Organisation (CTO)  
CARICOM Development Fund (CDF)  
Caribbean Telecommunications Union (CTU)  
Caribbean Agricultural Health and Food Safety Agency (CAHFSA)  
Caribbean Agricultural Development Institute – CARDI

## その他傘下機関

CARICOM Private Sector Organization (CPSO)	Caribbean Meteorological Organisation (CMO)
University of Guyana (UG)	CARICOM Implementing Agency for Crime and Security (IMPACS)
Caribbean Law Institute (CLI)/Caribbean Law Institute Centre (CLIC)	Caribbean Institute for Meteorology and Hydrology (CIMH)
Council of Legal Education (CLE)	Caribbean Examinations Council (CXC)
Caribbean Export and Investment Agency (Carib-Export)	Caribbean Aviation Safety and Security Oversight System- (CASSOS)
CARICOM Regional Organisation for Standards and Quality (CROSQ)	Caribbean Centre for Development Administration (CARICAD)
Caribbean Regional Information and Translation Institute (CRITI)	Caribbean Organisation of Tax Administrators (COTA)

# CARICOM14カ国の協力方針

**CARICOM構成国：JICAの協力対象国は、加盟国14カ国のみ。**

- 加盟国・地域（14カ国1地域）
  - アンティグア・バーブーダ、ガイアナ、グレナダ、ジャマイカ、スリナム、セントビンセント・グレナディーン、セントクリストファー・ネイビス、セントルシア、ドミニカ国、トリニダード・トバゴ、バハマ、バルバドス、ベリーズ、モンセラット（英領）
- 準加盟国・地域
  - アンギラ（英領）、バーミューダ諸島（英領）、ヴァージン諸島（英領）、ケイマン諸島（英領）、タークス・カイコス諸島（英領）

**（参考情報） CARICOMとは別に、東カリブ諸国機構（OECS）も域内には存在。**

- OECS：Organization of Eastern Caribbean States
- 加盟国：アンギラ（英領）、アンティグア・バーブーダ、ヴァージン諸島（英領）、グレナダ、セントクリストファー・ネイビス、セントルシア、セントビンセント・グレナディーン、ドミニカ国、モンセラット（英領）

# JICAの協力対象国



# CARICOM加盟国の現状

# 国概要

14カ国1地域から構成され、小島嶼国から沿岸大陸国、また低所得国からODA卒業国の高所得国を含み、各国の特色は多岐にわたる。

上位3カ国

下位3カ国

国名	人口 (万人、2021年)	面積 (km <sup>2</sup> 、2020年)	名目GDP (US\$、2021年)	1人当たり名目GDP (US\$、2021年)	実質GDP成長率 (%、2021年)	COVID-19 累計感染者・死者数
アンティグア・バーブーダ	10	440	14	14,118	1.0	4,129・108
バハマ	39	10,010	107	27,437	2.0	22,640・671
バルバドス	29	430	46	16,105	3.3	23,175・205
ベリーズ	43	22,810	19	4,458	8.5	29,501・558
ドミニカ	7	750	6	7,777	3.4	5,550・35
グレナダ	11	340	11	9,575	2.7	5,865・200
ガイアナ	79	196,850	74	9,369	20.4	37,090・968
ハイチ	1,191	27,560	201	1,692	-0.7	24,710・711
ジャマイカ	274	10,830	149	5,422	4.6	90,467・2,343
セントクリストファー・ ネービス	6	260	10	16,917	-1.0	2,764・28
セントルシア	18	610	17	9,419	3.5	12,872・272
セントビンセント・ グレナディーン	11	390	8	6,952	-6.1	5,359・73
スリナム	61	156,000	28	4,620	0.7	50,356・1,143
トリニダード・トバゴ	141	5,130	216	15,353	-1.0	64,402・1,908

## 旧宗主国による統治をきっかけに、機能的協力を目的とした「地域統合」

- 多くの国は過去にイギリスやフランス、オランダの統治下であり、CARICOM14カ国の内、旧仏領のハイチと旧蘭領のスリナムを除いた12か国は現在もコモンウェルス（イギリス連邦）に属しており、**いずれの国も旧宗主国とは深い繋がり**を有している。
- 1960年代から旧英領カリブ諸国を中心に地域統合の動きが見られ、1958年に「西インド諸島連邦」が創設され、独立後の1968年に域内貿易の自由化を目的とした「カリブ自由貿易連名（CARIFTA）へと形を変えた。
- そして、より多角的な機能的な協力を目的に、1973年にバルバドス、ガイアナ、ジャマイカ、TTで「チャガラマス条約」が署名され、「**カリブ共同体**」が同年8月に設立。以降、順次加盟国が増え、**2002年のハイチの正式加盟により、現行の14カ国1地域の体制**となった。



## 民主的な政治システム、低い汚職率

- 政体は「立憲君主制」を採用する国が多いが、ドミニカ、TT、スリナム、バルバドス、ハイチは「立憲共和制」を採用。
- 中南米地域には珍しく、**汚職率は域内全体として低い国が多い**。腐敗認識指数のランキングでは80位以内に位置する国が7か国もある一方で、ハイチの様に極端に汚職率が高い国もある。
- ガバナンスに関する指標から、「国民の声」や「政治的安定と暴力・テロの不在」の値がハイチを除いてプラスの値を取っていることから、民主的な政治システムであることが確認できる一方で、「**政府の効率性**」は**地域的な課題**であることが理解できる。特にベリーズ、ガイアナ、ハイチ、スリナム、TTの5カ国は、ガバナンス面で比較的多くの課題を抱えていることが分かる。

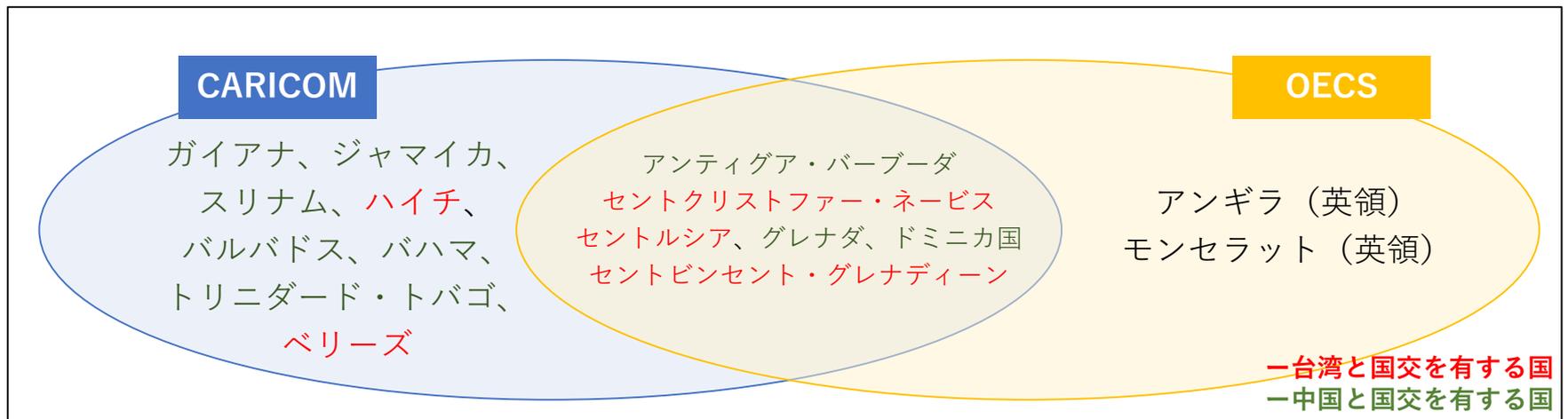
上位3カ国

下位3カ国

国名	政体	腐敗認識指数 (順位、2020)	Worldwide Governance Indicators (値：-2~+2、2020)					
			国民の声	政治的安定と 暴力・テロの不在	政府の効率性	汚職管理	規制の質	法の支配
アンティグア・バーブーダ	立憲君主制	N/A	0.74	0.93	-0.15	0.28	0.51	0.45
バハマ	立憲君主制	30位	0.92	0.85	0.45	1.14	0.01	0.05
バルバドス	立憲共和制	29位	1.13	1.13	0.49	1.23	0.48	0.34
ベリーズ	立憲君主制	N/A	0.53	0.51	-0.65	-0.19	-0.54	-0.76
ドミニカ	立憲共和制	48位	0.88	1.35	-0.18	0.56	0.20	0.74
グレナダ	立憲君主制	52位	0.69	1.03	-0.07	0.36	-0.17	0.29
ガイアナ	立憲君主制	83位	0.22	-0.15	-0.44	-0.15	-0.55	-0.43
ハイチ	立憲共和制	170位	-0.84	-1.04	-2.03	-1.32	-1.21	-1.04
ジャマイカ	立憲君主制	69位	0.63	0.27	0.41	-0.01	0.09	-0.24
セントクリストファー・ネイビス	立憲君主制	N/A	0.82	0.93	0.70	0.38	0.53	0.53
セントルシア	立憲君主制	45位	0.88	0.87	0.15	0.51	0.29	0.62
セントビンセント・グレナディーン	立憲君主制	40位	0.91	1.03	0.15	0.81	0.26	0.57
スリナム	立憲共和制	94位	0.42	0.42	-0.54	-0.43	-0.77	-0.11
トリニダード・トバゴ	立憲共和制	86位	0.64	0.18	0.18	-0.11	-0.14	-0.13

## 旧宗主国との深い繋がり、OECS加盟国、台湾承認国

- CARICOM14カ国の内、ハイチを除いた13カ国の公用語が英語であることから、旧宗主国のイギリスを含めアメリカやカナダを始めとする**欧米諸国との外交を重視**。特にEUとCARICOM間で2008年に経済連携協定を締結しており、主要輸出先国でもあることから、**EUとは政治・経済レベルでの関わりは深い**。
- なお、**OECS（東カリブ諸国機構）**の加盟国は、CARICOMとは別の外交関係を築いている。一部の国においては、CARICOMよりもOECSの関係性を重視する国も存在する。
- 地域的な大きな特徴として、**台湾承認国や北朝鮮と国交を有する**ことが挙げられる。現在時点では、**セントビンセント・グレナディーン、セントクリストファー・ネイビス、セントルシア、ハイチ、ベリーズの5カ国は台湾承認国**。過去にバハマとドミニカ国も台湾承認国であったが、それぞれ1997年、2004年に国交を断絶。なお、それ以外の9カ国は、中国との国交を有する。



# マクロ経済（実体経済）

- 各国の面積や人口に比例し、TT、ジャマイカ、ハイチが高い水準の名目GDPを記録しており、一方で人口の小さいセントクリストファー・ネイビス、セントビンセント・グレナディーン、ドミニカ国は域内ではGDPは小規模。
- GDP成長率は、2020年のCOVID-19の世界的流行により、ガイアナを除いた全ての国がマイナス傾向となっており、一部を除いて2021年以降は回復傾向との予測。**ガイアナは2020年から石油の輸出を始めた**ことから、COVID-19禍でもGDP成長率はプラス傾向。
- インフレ率は、ハイチとスリナムが域内では特に高い傾向。

上位3カ国

下位3カ国

国名	名目GDP (億米ドル)			実質GDP成長率 (%)			インフレ率 (%)		
	2019	2020	2021	2019	2020	2021	2019	2020	2021
アンティグア・バーブーダ	16.87	13.70	14.05	4.75	-20.03	0.97	1.43	1.06	1.58
バハマ	131.64	99.08	106.81	0.70	-14.52	2.00	2.49	0.04	3.02
バルバドス	52.98	44.18	46.48	-1.29	-18.00	3.30	4.10	2.88	2.47
ベリーズ	19.83	17.06	19.09	1.76	-14.04	8.50	0.19	0.12	3.10
ドミニカ	6.16	5.44	5.71	7.49	-10.98	3.37	1.51	-0.73	1.45
グレナダ	11.88	10.27	10.83	0.68	-13.06	2.68	0.60	-0.74	2.51
ガイアナ	51.74	54.71	73.95	5.35	43.48	20.41	2.09	0.72	3.24
ハイチ	147.87	145.08	201.43	-1.69	-3.34	-0.70	17.31	22.95	16.17
ジャマイカ	158.08	139.67	148.57	0.97	-10.05	4.58	3.91	5.21	5.61
セントクリストファー・ネイビス	11.65	9.81	9.76	4.80	-14.41	-1.03	-0.33	-0.59	-0.97
セントルシア	21.19	16.17	17.15	-0.06	-20.37	3.48	0.54	-1.75	2.53
セントビンセント・グレナディーン	8.25	8.07	7.69	0.53	-3.25	-6.07	0.91	-0.61	1.95
スリナム	39.84	28.84	28.17	1.10	-15.91	0.68	4.39	34.89	54.39
トリニダード・トバゴ	232.08	215.87	215.99	-1.25	-7.85	-1.02	1.00	0.60	1.04

# マクロ経済（財政収支）

- カリブ域内のマクロ経済の大きな特徴として、**財政収支が慢性的な赤字状態**にあることが挙げられる。
- 下段の表の通り、COVID-19流行下の2017年～2019年までのプライマリーバランスはアンティグア・バーブーダやドミニカ国、ガイアナ、スリナムのみ赤字状態であるが、**財政収支はグレナダ、ジャマイカ、セントクリストファー・ネービス以外、全て赤字傾向**。特に2020年はCOVID-19の流行に伴い、各種支出が増加したことから、赤字幅が2019年の数値よりも拡大している。

上位3カ国

下位3カ国

国名	プライマリーバランス (GDP比、%)				財政収支 (GDP比、%)			
	2017	2018	2019	2020	2017	2018	2019	2020
アンティグア・バーブーダ	0.1	-0.7	-1.2	-2.9	-2.4	-3.2	-3.8	-5.4
バハマ	-3.2	-0.8	0.8	-3.6	-5.4	-3.3	-1.6	-6.3
バルバドス	3.2	3.5	6.1	-0.8	-4.5	-0.3	3.7	-4
ベリーズ	1.4	2.4	-1.2	-8.5	-1.3	-0.9	-4.5	-10.2
ドミニカ	-3.4	-6.1	-14.3	-12.4	-5	-8.2	-16.5	-14.7
グレナダ	5.7	6.9	6.9	-2.6	3	4.9	5	-4.6
ガイアナ	-2.5	-1.8	-2	-6.9	-3.3	-2.7	-2.8	-7.5
ハイチ	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A	N/A
ジャマイカ	7.5	7.5	7.1	3.5	0.5	1.2	0.9	-3.1
セントクリストファー・ネービス	3.4	4.6	2.9	-5	1.9	3.2	1.7	-6.4
セントルシア	1.7	1	0.7	-5.6	-1	-1.8	-2.2	-9.2
セントビンセント・グレナディーン	0.3	0.8	-0.5	-3.4	-2.1	-1.6	-3	-5.9
スリナム	-5.5	-6.7	-6.6	-11.5	-8.7	-10.1	-9.7	-13.5
トリニダード・トバゴ	-6	-0.6	0.6	-8	-9	-3.6	-2.6	-11.3

# マクロ経済（債務状況）

- カリブ地域はCOVID-19の世界的な流行以前から中米地域と比較しても、**公的債務率の数値は高く**、その傾向は2020年以降も継続する見込み。特に下段の表に赤字で示されている通り、**2020年に公的債務率が100%を超えている国は6カ国**存在する。6カ国の内、バルバドスは特に数値が悪く、2018年時点から既に100%を超えており、2020年は150%以上を記録している。2022年には2019年と同じ水準に戻ることが予想されているが、依然として域内では最大級の債務国となることが見込まれている。
- なお、カリブ域内の高い公的債務率と比較して、グレナダ、ガイアナ、ハイチ、セントクリストファー・ネイビス、TTは中米の平均と同程度、或いは少し上回る水準で維持している。

国名	公的債務率 (GDP比、%)				
	2018	2019	2020	2021	2022
アンティグア・バーブーダ	87.73	81.29	101.33	105.22	99.08
バハマ	61.80	59.69	75.15	102.55	94.24
バルバドス	125.97	124.79	156.76	138.26	126.59
ベリーズ	94.33	94.42	123.29	117.89	113.85
ドミニカ	84.63	94.69	108.68	107.76	103.07
グレナダ	64.48	60.55	71.30	70.19	69.35
ガイアナ	47.37	43.87	51.37	47.03	36.20
ハイチ	21.55	25.79	21.35	24.95	25.06
ジャマイカ	94.39	94.26	107.42	95.81	87.31
セントクリストファー・ネイビス	53.62	51.45	56.87	61.70	57.72
セントルシア	60.02	61.43	92.08	95.65	91.38
セントビンセント・グレナディーン	75.64	75.15	85.00	101.00	94.01
スリナム	66.14	85.24	148.24	140.55	137.52
トリニダード・トバゴ	42.38	46.47	59.27	70.43	72.54

赤字は100%以上の国

上位3カ国

下位3カ国

各年平均 (GDP比、%)		
年度	カリブ	中米
2018	70.00	45.93
2019	71.36	48.57
2020	89.87	60.78
2021	91.36	60.50
2022	86.28	60.16

# マクロ経済（経常収支）

- 財政収支と同様に、**経常収支も同じく赤字傾向**。特に、**他国からの輸入に依存傾向**にあることから、貿易収支はTTやセントルシア、セントクリストファー・ネイビスを除いて慢性的な赤字状態。**TTは石油輸出国であることから、貿易収支が黒字状態**。
- 2019年時点での**GDP比で観光セクターが占める割合は域内の平均では27%程度**であり、中でもアンティグア・バーブーダやバハマ、セントビンセント・グレナディーンは40%を超える。他方、ガイアナやハイチ、スリナム等が、観光資源が少ないことや治安の観点から、観光セクターが占める割合は少ない。

上位3カ国
下位3カ国

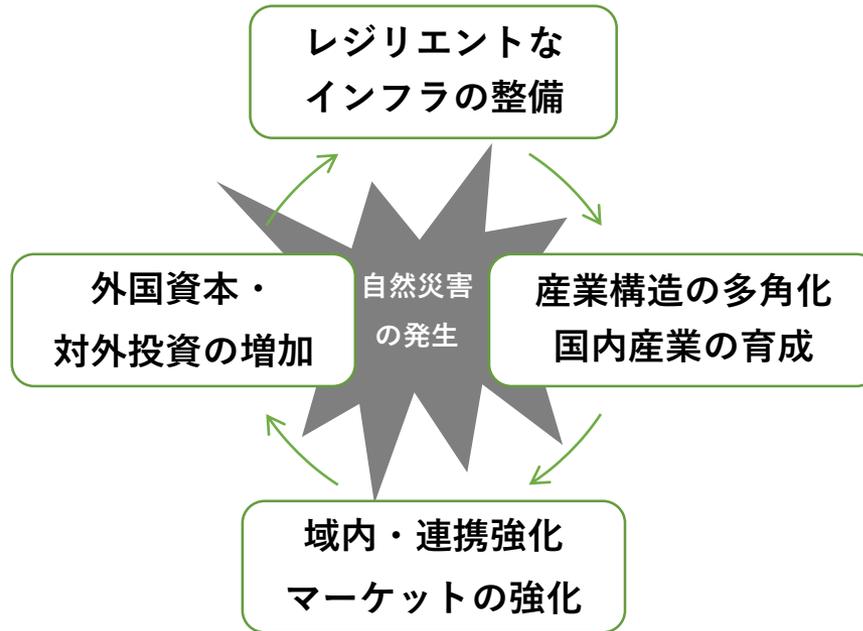
国名	貿易・サービス収支 (百万ドル)			所得収支 (百万ドル)			経常移転収支 (百万ドル)			経常収支 (百万ドル)			観光セクターの 対GDP比 2019
	2018	2019	2020	2018	2019	2020	2018	2019	2020	2018	2019	2020	
アンティグア・バーブーダ	-97	40	-56	-78	-106	-25	-59	-46	-28	-233	-112	-109	42.7
バハマ	-737	-215	-1950	-682	-547	-489	-69	846	373	-1488	84	-2065	43.3
バルバドス	-183	-110	-374	N/A	N/A	N/A	-44	-46	93	-227	-156	-281	30.9
ベリーズ	-84	-103	-187	-145	-158	-59	78	84	118	-151	-177	-128	37.2
ドミニカ	-263	-231	-174	-1	-10	14	25	18	21	-239	-223	-139	36.9
グレナダ	-63	-91	-114	-109	-120	-81	-10	8	20	-181	-202	-175	40.5
ガイアナ	-1903	-3359	-278	-28	-47	-32	492	581	658	-1439	-2824	-652	4.4
ハイチ	-3892	-3615	-2956	50	50	28	3469	3442	3847	-373	-123	918	8.4
ジャマイカ	-2100	-2339	-2525	-596	-441	-455	2452	2416	2961	-244	-364	-18	31.1
セントクリストファー・ ネイビス	17	22	-105	-47	-48	-13	-29	-30	-24	-58	-56	-142	28.2
セントルシア	150	258	-204	-112	-134	-37	7	5	22	45	129	-219	28.6
セントビンセント・グレナ ディーン	-138	-115	-185	-2	-7	2	41	42	41	-98	-80	-142	40.7
スリナム	166	-126	601	-387	-413	-450	103	90	124	-119	-449	275	2.6
トリニダード・トバゴ	2413	1642	N/A	-700	-608	N/A	-100	22	N/A	1613	1056	N/A	7.8

# 開発課題と開発政策

# 開発課題の根幹

## 開発促進要因

- 産業構造の多角化、生産性向上
- 地場産業・新規産業の振興
- 雇用創出
- 災害にレジリエントなインフラ整備
- 地域間連携、マーケットの拡大



## 開発阻害要因

- 慢性的な財政赤字、債務問題
- 産業構造の単一化
- 観光リーケージ
- 輸入依存構造
- 頭脳流出
- 自然災害の頻発
- COVID-19による渡航制限

社会経済開発への投資不足

財政赤字

国内産業の脆弱性

インフラ整備

競争力の欠如

小島嶼国特有の脆弱性  
(遠隔性・小人口・自然災害)

# 对CARICOM加盟国支援方針

## CARICOM加盟国の重要性、日・カリコム諸国の関係

- **基本的価値の共有と我が国との共通性**：民主主義、島国、自然災害
- **国際場裡における一大勢力**：各種国際選挙、安保理改革、海洋生物資源の持続可能な利用等
- **日本の立場を支持・理解**：地球規模課題での協力
- 日・カリコム外相会合は2000年から累計7度開催、日・カリコム事務レベル協議は1993年からほぼ毎年実施。
- **第1回日・カリコム首脳会合（2014年7月）**：安倍総理が以下3つ柱で構成される「日本の対カリコム政策」
  - ① 小島嶼開発途上国特有の脆弱性克服を含む持続的発展に向けた協力
  - ② 交流と友好の絆の拡大と深化
  - ③ 国際社会の諸課題への取組における協力

## 二国間関係の深化及びCARICOM加盟国の持続可能な開発への支援

- 島嶼国特有の脆弱性を共有し、日本が知見を豊富に持つ「**レジリエントな社会基盤の整備**」や、「**産業振興・人材育成**」等の協力を行うことは、二国間関係の深化への寄与という観点から意義がある。
- CARICOMは年二回の首脳会議を行っており、CARICOMや加盟国へのバイの支援を継続的に実施することにより、**首脳レベルでのハイレベルな打ち込みも可能**となる。
- CARICOMは域内の連合機関/専門機関であるため、**少ない投入を効率的に活用し、同機関の体制強化・能力強化を図る**ことで、**カリブ各国への広域的な裨益**が期待される。
- **直接的な支援が困難である卒業国**に対しても、域内機関を通じて支援することが可能になり、高所得国が多い中南米地域であるからこそその得られる知見や教訓が得られる。
- 更に協力で得た各種知見は大洋州を始めとするSIDSや、或いは地域の集合的組織（例えばアフリカであればAU連合、中南米であればSICA）へも応用が可能。

# 他主要ドナーの協力状況

## 英語圏による二国間ドナー、CDB・EUによる支援

- 主要二国間ドナーはアメリカやカナダ、イギリス等の英語圏の国々による支援が多い。その他に、UAEやクウェート等による支援も存在。特にUAEは2014年の第3回SIDS国際会議をきっかけに、SIDSへ支援を展開中。
- 主要多国間ドナーは、CARICOM傘下機関であるカリブ開発銀行（CDB）による支援が多く、ガイアナとハイチを除いて支援額はトップ3に入る。その他には、EUやIDB、IDA等による支援が多い。
- 支援額は大きくはないものの、セントルシアやセントビンセント・グレナディーン、セントクリストファー・ネイビス、ハイチの4か国へ台湾からの支援が行われている。主に農業・防災・保健医療分野を中心に展開。

国名	主要二国間ドナー（2019） （国名、百万US\$）			主要多国間ドナー（2019） （国名、百万US\$）		
	1位	2位	3位	1位	2位	3位
アンティグア・バーブーダ	UAE (4.790)	日本 (2.05)	イタリア (0.25)	CDB (8.69)	AF (2.86)	EU (2.61)
バハマ	DAC卒業国					
バルバドス	DAC卒業国					
ベリーズ	クウェート (6.94)	アメリカ (2.91)	イギリス (1.61)	CDB (14.90)	EU (7.56)	OPEC (2.89)
ドミニカ	アメリカ (4.26)	カナダ (2.81)	日本 (1.44)	EU (14.59)	IMF (10.75)	CDB (9.57)
グレナダ	ドイツ (0.75)	クウェート (0.49)	イギリス (0.19)	IDA (18.15)	IMF (6.83)	CDB (3.56)
ガイアナ	ノルウェー (25.58)	日本 (2.25)	イギリス (2.04)	IDB (31.36)	IDA (25.01)	EU (16.30)
ハイチ	アメリカ (282.5)	カナダ (76.8)	フランス (41.4)	EU (95.9)	IDB (93.0)	IDA (87.4)
ジャマイカ	アメリカ (29.67)	フランス (24.63)	イギリス (11.72)	EU (28.14)	IMF (11.89)	CDB (8.43)
セントクリストファー・ネイビス	DAC卒業国					
セントルシア	フランス (0.80)	カナダ (0.50)	イギリス (0.41)	CDB (11.97)	IDA (4.57)	EU (3.23)
セントビンセント・グレナディーン	クウェート (2.55)	日本 (2.17)	UAE (1.33)	CDB (20.54)	IDA (20.02)	EU (4.70)
スリナム	オランダ (3.718)	日本 (2.862)	フランス (1.203)	CDB (6.620)	EU (4.517)	IDB (1.682)
トリニダード・トバゴ	DAC卒業国					

# 現行の協力プログラム

## ハイチを除くCARICOM13か国

重点分野	開発課題	協力プログラム
防災・環境	防災・環境問題改善	防災・環境問題改善支援プログラム
水産 (※東カリブ小島嶼国6か国のみ)	水産業の持続的発展への支援	産業・漁村コミュニティー 開発支援プログラム
格差是正 (※ジャマイカのみ)	雇用機会の拡充・人材育成	中小企業・生産性強化プログラム

## ハイチ

重点分野	開発課題	協力プログラム
保健・衛生環境の改善	基礎社会サービスへの アクセス向上	保健・衛生改善プログラム
教育振興	教育・人材育成	教育・職業訓練推進プログラム
農業振興と食料安全保障の強化	農業振興及び食料事情の改善	食料安全保障プログラム
防災・環境保全による 経済基盤の強化	災害対応能力の向上 と環境保全	復興のための基盤整備プログラム

# 協力プログラムの改定案

## 問題意識

経済指標だけでは測りきれない、島嶼国特有の脆弱性がCOVID-19により顕在化  
 +  
 CARICOM域内の連携や小島嶼開発途上国（SIDS）間の知見共有が限定的



## CARICOM14カ国共通

重点分野	開発課題	協力プログラム
強靱な社会の構築	強靱な社会基盤の整備	気候変動対策プログラム
		保健・衛生改善プログラム
		教育セクター強化プログラム
持続可能な経済開発	産業振興と人材育成	農業・水産業開発プログラム
		民間セクター開発プログラム
小島嶼国特有の脆弱性	地域統合・地域間協力の促進	CARICOM開発・連携促進プログラム

# 持続可能な開発への支援

計画年

2021-2026

2026~

社会基盤の整備

教育：基礎教育の強化  
・ 頭脳流失対策

保健・衛生改善：母子保健・NCDs対策、水衛生改善

気候変動対策：防災強化、災害に強靱なインフラ整備（廃棄物・電力）

産業振興・人材育成

農業・水産業開発：産業基盤の整備  
・ 生産性向上

民間セクター開発：新たな産業の形成

域内・地域間連携

域内連携：CARICOM諸国間の連携強化・知見蓄積

地域間連携：SIDs間のピアラーニング

# 今後の協力の重点対象国

国名	モダリティ	内容・方針
ベリーズ	技術協力（個別/広域）	唯一の中米大陸内の国。ボランティアスキームを通じて関係を構築してきており、JICAチェアからバイ協力につながった好事例も有する。SICA、CARICOM双方に属する唯一の国、かつ数少ない台湾承認国として、今後Policy Dialogueも強化。
ガイアナ、TT	技術協力（広域） 有償資金協力	技協はバイではなく、CARICOM広域案件の対象国中に含めるが、今後は有償案件の形成を目指す。
ハイチ	技術協力（個別） 無償資金協力	治安状況が改善すれば、バイの技協・無償を含め投入規模を増やしていく国。
ジャマイカ	技術協力（個別/広域） 有償資金協力	一定程度バイ案件を実施し、CARICOM広域案件に取り込む国、有償を既の実施している唯一の国であり、今後も案件形成を志向。
その他の国	技術協力（広域）	広域案件及び研修事業、派遣可の国へはボランティアも継続して派遣する。賛捕鯨国へは水産分野協力を意識しつつ、過去の水産無償を活用していく。

## 気候変動対策の実現

### 防災

- ◆ 課題
  - ハリケーンや洪水、火山噴火等の自然災害の多発
  - 高い復興費用
- ◆ 想定される支援
  - コミュニティ防災支援
  - 災害リスク削減の能力強化
  - 事前防災投資
  - Build Back Betterを念頭においた復旧・復興対策

### 環境

- ◆ 課題（エネルギー・廃棄物）
  - 化石燃料への依存構造
  - 高い電力料金
  - 島嶼国の廃棄物処理
- ◆ 想定される支援
  - 再エネ/省エネの推進
  - レジリエントな送配電網の整備
  - 海洋プラスチック等の基礎的な廃棄物処理能力の向上

## ユニバーサルヘルスカバレッジの実現

### 医療体制の強化

- ◆ 課題
  - 肥満や糖尿病等の非感染性疾患による高い死亡率
  - 母子の高い死亡率、産前検診や予防接種のカバレッジの低さ
- ◆ 想定される支援
  - 非感染性疾患/感染症対策
  - 母子保健対策
  - カリブ公衆衛生を通じたカリブ域内の保健分野の政策策定

### 水衛生

- ◆ 課題
  - 未給水地区や給水が困難な地域が存在
  - 低い水質
  - 給水管の老朽化に伴う無修水率の高さ
- ◆ 想定される支援
  - 上下水道整備の技プロ
  - 上下水道整備に係る無償・円借款（※円借款は主にTT、ガイアナ、ジャマイカを想定）

## 教育の質・アクセス改善の実現

### 教育アクセスの改善

- ◆ 課題
  - 遠隔教育を含む教育サービスへのアクセスが限定的
  - インクルーシブ教育の未発達
- ◆ 想定される支援
  - 遠隔教育の拡充・浸透
  - インクルーシブ教育の拡充
  - 教育施設整備

### 教育の質の改善

- ◆ 課題
  - 国内の教育の質が悪いため、国外に就学する人口が多い
- ◆ 想定される支援
  - 中等教育・高等教育の質の改善
  - 職業訓練を通じた人材育成

## フードバリューチェーンの実現

### 農業

- ◆ 課題
  - 低い食料自給率
  - 限定的な産業構造
- ◆ 想定される支援
  - 持続可能な農業生産性の向上
  - 一村一品の振興
  - 農業セクターにおけるフードバリューチェーンの構築

### 水産

- ◆ 課題
  - 限定的な加工技術による少ない水産品の輸出
  - 水産資源の減少
- ◆ 想定される支援
  - 水産セクターのバリューチェーンの構築
  - 水産資源保全

## 域内の産業振興の実現

### 観光

- ◆ 課題
  - 観光危機管理（自然災害やサルガッサムによる影響）
  - 人的資源の脆弱性
  - 観光資源のリーケージ
- ◆ 想定される支援
  - コミュニティベースの観光業の振興
  - エコツーリズムの推進

### 中小企業振興

- ◆ 課題
  - 域内の低い競争力
  - 産業の単一化（観光産業への高い依存度）
  - 中小企業の脆弱性
- ◆ 想定される支援
  - 中小企業支援
  - スタートアップ企業支援
  - 新規産業形成の支援

## 域内の連携促進の実現

### 域内の連携強化

- ◆ 課題
  - CARICOM傘下機関のインパクトが小さい
  - 域内での連携強化が限定的、特にハイチやベリーズ
- ◆ 想定される支援
  - 域内の傘下機関のネットワーク・連携強化
  - CARICOMアドバイザーの派遣

### SIDS間の知見共有

- ◆ 課題
  - 小島嶼国間での知見共有が十分になされていない
- ◆ 想定される支援
  - CARICOM×大洋州での知見共有プラットフォームの構築
  - SIDS間での定期的な会合の実施
  - アフリカ連合を含む他地域機関との連携強化

# JCAP本文

# 国別分析ペーパー構成

<b>第1章</b>	<b>CARICOM諸国の現状</b>
1.1	CARICOM概要説明
1.2	政治・経済状況
1.3	産業の動向
1.4	貧困削減、SDGsの達成状況
<b>第2章</b>	<b>開発政策・計画及び主要開発課題、セクターの分析</b>
2.1	開発政策・計画 SDGsとの関係性
2.2	主要課題、セクター
2.2.1	ガバナンス
2.2.2	保健医療・衛生
2.2.3	教育
2.2.4	農業開発・農村開発
2.2.5	民間セクター開発（観光・中小企業）
2.2.6	運輸交通
2.2.7	エネルギー
2.2.8	環境管理及び自然環境保全
2.2.9	防災
<b>第3章</b>	<b>協力の状況</b>
3.1	日本及びJICAの協力実績・教訓
3.2	他ドナーの協力状況及び援助協調の状況

<b>第4章</b>	<b>取り組むべき主要開発課題、セクターの導出</b>
4.1	協力の意義
4.2	取り組むべき主要開発課題、セクター
<b>第5章</b>	<b>主要開発課題、セクター毎の具体的な協力概要</b>
5.1	主要開発課題及び協力の方向性
5.2	協力プログラムの方向性
5.2.1	防災・環境問題改善プログラム
5.2.2	保健・衛生改善プログラム
5.2.3	教育セクター強化プログラム
5.2.4	農業・水産業開発プログラム
5.2.5	民間セクター開発プログラム
5.2.6	CARICOM開発・連携促進プログラム
<b>第6章</b>	<b>協力実施上の留意事項</b>
6.1	広域協力の推進
6.2	有償資金協力の推進
6.3	開発パートナーの枠組み

# 質疑応答

# 参考情報

# 社会（人間開発指数・教育）

- CARICOM諸国は中米地域と比較して、所得水準も高い国が多いことから、人間開発指数は比較的高水準を維持している国が多い。特にバハマやバルバドス、TTは189カ国中それぞれ、58位と67位を記録している。その一方で、ハイチを筆頭に人間開発指数が低い国も一部存在する。
- 平均教育年数は、ハイチを除いて平均8.6年～9.2年となっており、中南米地域の平均と同じ水準を記録している。特に、バハマやバルバドス、TTは域内でも平均年数が大きく、何れも10年以上を超えている。ハイチは、2019年時点でも平均5.6年であり、教育アクセスの向上は喫緊の課題。

上位3カ国

下位3カ国

国名	人間開発指数				平均教育年数			ジェンダーギャップ指数	
	2010	2015	2019		2010	2015	2019	2019	
	指数	指数	指数	順位	指数	指数	指数	指数	順位
アンティグア・バーブーダ	0.763	0.762	0.778	78	9.2	9.2	9.3	N/A	N/A
バハマ	0.805	0.808	0.814	58	11.5	11.3	11.4	0.341	77
バルバドス	0.797	0.809	0.814	58	9.4	10.5	10.6	0.252	56
ベリーズ	0.695	0.710	0.716	110	9.5	9.5	9.9	0.415	97
ドミニカ	0.740	0.739	0.742	94	7.8	8.0	8.1	N/A	N/A
グレナダ	0.754	0.770	0.779	74	8.3	8.7	9.0	N/A	N/A
ガイアナ	0.649	0.674	0.682	122	8.1	8.4	8.5	0.462	115
ハイチ	0.471	0.496	0.510	170	4.7	5.3	5.6	0.636	152
ジャマイカ	0.732	0.731	0.734	101	8.9	9.5	9.7	0.396	88
セントクリストファー・ネイビス	0.746	0.768	0.779	74	7.8	8.4	8.7	N/A	N/A
セントルシア	0.730	0.747	0.759	86	8.4	8.4	8.5	0.401	90
セントビンセント・グレナディーン	0.718	0.733	0.738	97	8.3	8.5	8.8	N/A	N/A
スリナム	0.710	0.740	0.738	97	7.7	9.0	9.3	0.436	105
トリニダード・トバゴ	0.784	0.792	0.796	67	10.8	10.9	11	0.323	73

# 社会（保健医療）

- CARICOM諸国はガイアナとハイチを除き、平均寿命は中南米地域の平均と同水準を記録。ガイアナとハイチは2010年から増加傾向にあるが、域内の他国と比較すると平均年数は低い。
- 5歳未満児の死亡率は中南米平均の1,000人当たり16.2の水準と同程度、或いは下回る国が多い。他方、ハイチやガイアナ、ドミニカ国では死亡率が平均の2倍近く異なり、当該国での母子保健の分野は喫緊の課題。特に、ドミニカ国は他国と異なり、2010年以降から増加傾向にあるため、同国での対応は急務。
- カリブ地域では、他の島嶼国と同様に、非感染性疾患（NCDs）による死亡率が高く、男女共に中南米地域の平均1.5~2倍程度の水準となっている。特に、ベリーズやガイアナ、ハイチではその傾向が顕著である。

上位3カ国

下位3カ国

国名	平均寿命 (年数)			5歳未満児の死亡率 (1000人当たりの割合)			NCDsに起因する死亡率 (100,000人当たりの割合)		(参考情報) COVID-19 累計感染者・死亡者数
	2010	2015	2019	2010	2015	2018	2015		
							男性	女性	
アンティグア・バーブーダ	75.8	76.5	77	9.6	7.3	6.4	659.6	463.5	4,129・108
バハマ	72.1	73.1	73.9	12.9	11.2	10.2	516.2	356	22,640・671
バルバドス	78.4	78.8	79.2	14.6	13.3	12.2	643.8	442.1	23,175・205
ベリーズ	72.1	74	74.6	18.9	15.3	13.0	811.5	626.1	29,501・558
ドミニカ	77.4	77.9	78.2	21.2	32.1	35.7	N/A	N/A	5,550・35
グレナダ	72.9	72.4	72.4	14.2	15.0	15.2	707.6	524.1	5,865・200
ガイアナ	68.1	69.3	69.9	37.4	33.1	30.1	884	777.3	37,090・968
ハイチ	60.5	62.5	64	208.6	70.6	64.8	817.9	704.4	24,710・711
ジャマイカ	74	74.1	74.5	18.3	15.9	14.4	483.1	397.3	90,467・2,343
セントクリストファー・ネイビス	72.9	74	74.8	14.7	13.1	12.0	N/A	N/A	2,764・28
セントルシア	74.9	75.6	76.2	18.6	17.8	16.6	570.7	427	12,872・272
セントビンセント・グレナディーン	71.8	72.1	72.5	20.9	18.0	16.4	756.3	519.2	5,359・73
スリナム	70.5	71.2	71.7	24.7	20.9	18.9	764.7	507.8	50,356・1,143
トリニダード・トバゴ	71.9	72.9	73.5	23.4	20.2	18.3	761.0	524.1	64,402・1,908

# 自然災害情報

- 2000年以降のCARICOM諸国内で発生した累計の自然災害（①地球物理学的（地震・火山噴火等）、②気象学的（ハリケーン）、③水文学的（洪水等）、④気候学的（早魃・火災等）の4つのグループで構成）の発生件数は合計で185件となり、域内では特にハイチ（82件）が最も高い数字を記録している。その他の国の発生件数は20件未満となっているが、バハマやドミニカ国、グレナダ、ジャマイカは域内各国で比較しても累計経済損失が大きい。その原因として、いずれの国も観光セクターが対GDP比で占める割合が多いことが理由に挙げられる。
- 域内の特徴として、災害の種類はハリケーンと洪水が多く発生しており、CARICOM諸国内の共通課題として捉えることができる。なお、一部地域では、地震や早魃、噴火等も発生している。
- 2021年はCOVID-19の世界的流行だけでなく、4月にセントビンセント・グレナディーンのスプリエール火山の発生、5月にガイアナで大洪水、8月にはハイチでは地震が発生している。

国名	2000年～2019年に発生した災害					(参考) 観光セクターの 対GDP比
	自然災害の種類	累計発生件数 (件数)	累計被害者数 (人数)	累計死者数 (人数)	累計経済損失 (百万ドル)	
アンティグア・バーブーダ	ハリケーン	3	32,200	1	262.6	42.7
バハマ	洪水、ハリケーン	15	53,210	418	2627	43.3
バルバドス	ハリケーン、早魃、地震	8	8,682	2	5.2	30.9
ベリーズ	洪水、ハリケーン	12	230,925	55	552.004	37.2
ドミニカ	ハリケーン、地震	6	107,957	96	1958.81	36.9
グレナダ	洪水、ハリケーン	2	60,000	39	889	40.5
ガイアナ	洪水、早魃	7	762,048	34	648.8	4.4
ハイチ	洪水、ハリケーン、早魃	82	17,662,411	457,868	10444.52	8.4
ジャマイカ	洪水、ハリケーン、早魃	20	869,311	71	1544.757	31.1
セントクリストファー・ネイビス	ハリケーン	1	N/A	N/A	20	28.2
セントルシア	洪水、ハリケーン	10	227,984	22	41	28.6
セントビンセント・グレナディーン	洪水、ハリケーン、 早魃、噴火	11	97,260	16	155.5	40.7
スリナム	洪水、ハリケーン	3	41,648	5	0	2.6
トリニダード・トバゴ	洪水、ハリケーン	5	151,760	3	4.7	7.8

# 電力セクター

- 電化率は100%或いは100%近い国が大半を占めるが、一部ハイチやベリーズ、ガイアナの様に電化率が他国と比較して低い国も存在する。特にハイチの44%はCARICOM諸国内だけでなく、中南米域内の中でも最も低い。
- CARICOM諸国も他のSIDSと同様に、化石燃料が発電源の大部分を占め、多くの国が90%の割合を超えている。他方、一部ベリーズやスリナムの様に沿岸大陸国では、利用可能な水資源や土地が豊富にあることから、水力発電や太陽光発電も活用されており、域内の中では再エネの割合が高くなっている。唯一、島嶼国内ではドミニカが再エネ率22%となっており、2008年～2011年の金融危機に起因して、国を挙げて再エネ導入に取り組んだからである。
- また、域内の大きな特徴として、電力コストが高いことが挙げられる。中南米域内の平均コストが約23米セント/kWhであるが、CARICOM諸国では多くの国が約25~30セントを推移しており、その原因は高い化石燃料への依存構造によるものである。他方、TTの様に産油国やベリーズやスリナムの様に再エネ率が高い国では、電力コストは中南米平均以下を記録している。

上位3カ国

下位3カ国

国名	電化率 (%)	化石燃料割合 (%)	再エネ割合 (%)	再エネの種類	電力使用量 (kWh)	電力コスト (US\$セント/kWh)
	2018	2019	2019	2019	2019	2020
アンティグア・バーブーダ	100	94	6	太陽光	3,522	44.9
バハマ	100	100	0	N/A	4,912	28.5
バルバドス	100	96	4	太陽光	3,535	26.6
ベリーズ	92	40	60	バイオガス 水力、太陽光	1,164	22.6
ドミニカ	100	78	22	水力、風力	1,252	36.8
グレナダ	95	98	2	太陽光	2,004	30.9
ガイアナ	91	92	8	バイオガス、太陽光	1,419	32.8
ハイチ	44	91	9	水力	89	21.1
ジャマイカ	99	87	13	風力、水力 太陽光、バイオガス	1,422	26.4
セントクリストファー・ネイビス	100	96	4	風力、太陽光	3,697	30.6
セントルシア	99	99	1	太陽光	2,097	32.1
セントビンセント・グレナディーン	100	82	18	水力、太陽光	1,279	31.5
スリナム	97	48	52	水力、太陽光	3,220	7.2
トリニダード・トバゴ	100	100	0	N/A	5,975	6.6

# デジタルイゼーション

- CARICOM諸国のインターネットアクセス率は、2010年時点ではアンティグア・バーブーダ、バルバドス、セントクリストファー・ネイビス以外はアクセスが総家計数の30%を下回っていたが、2017年時点では、ガイアナとハイチ、ベリーズを除いてアクセス率が50%以上になっており、大幅に増加している。
- 携帯電話保有率は最新のデータでは、多くの国が100%以上を超えている中、バハマ、ベリーズ、ガイアナ、ハイチ、セントビンセント・グレナディーンは下回っている。
- 電子政府ランキングでは、バハマやバルバドス、TTの様に経済規模が大きい国は進んでいる傾向となり、それ以外の国々は伸び悩んでいる傾向にある。（※E-Government Development Index(EGDI)は、Online Service Value (OSI)、Human Capital Index (HCI)、Telecommunication Infrastructure Index (TII)で構成される。詳細説明は次ページ。）

上位3カ国

下位3カ国

国名	インターネット アクセス率 (家計、%)			固定ブロードバンド 契約率 (家計、%)			携帯電話保有率 (%)		電子政府ランキング (EDGI)				
	2010	2014	2017	2010	2014	2017	2014	2017	順位	EGDI	OSI	TII	HCI
アンティグア・バーブーダ	40	54	62	32	46	38	195.0	196.7	98	0.6055	0.4471	0.6176	0.7518
バハマ	N/A	58	70	23	69	75	96.0	84.5	73	0.7017	0.6765	0.6739	0.7546
バルバドス	47	62	70	53	72	63	117.0	105.4	62	0.7279	0.5765	0.7523	0.8549
ベリーズ	14	21	36	11	11	21	102.0	94.0	136	0.4548	0.2647	0.4079	0.6919
ドミニカ	28	49	64	36	47	66	117.0	117.9	99	0.6013	0.4471	0.6871	0.6698
グレナダ	28	40	47	44	57	67	114.0	116.7	102	0.5812	0.3412	0.5449	0.8576
ガイアナ	16	24	28	6	22	32	82.0	83.6	129	0.4909	0.4647	0.3619	0.6462
ハイチ	3	4	5	N/A	N/A	N/A	63.0	64.3	180	0.2723	0.1882	0.2449	0.3839
ジャマイカ	14	26	53	N/A	N/A	N/A	111.0	104.3	114	0.5392	0.3882	0.5151	0.7142
セントクリストファー・ネイビス	57	61	75	86	77	85	144.0	144.0	95	0.6352	0.3941	0.7080	0.8035
セントルシア	27	37	46	35	46	51	107.0	107.3	112	0.5444	0.3824	0.5302	0.7205
セントビンセント・グレナディーン	37	44	55	46	55	90	128.0	93.9	109	0.5605	0.4706	0.4894	0.7214
スリナム	14	34	52	15	46	68	174.0	174.5	122	0.5154	0.2882	0.5482	0.7098
トリニダード・トバゴ	29	58	78	41	61	80	136.0	136.0	81	0.6785	0.6118	0.6803	0.7434

# (参考情報) EDGI指標の説明

## 【OSI・TII・HCIの定義】

- OSI (Online Service Value) は、各国のオンラインサービスの活用に関する指標。UNDESA独自の調査と各国からのアンケート結果に基づき算出している。婚姻届けや出生届といった、様々な行政手続きのオンライン化や、Webによる国の情報公開へのアクセスの容易性といった項目について、各国からのアンケート結果を元に算出。
- TII (Telecommunication Infrastructure Index) は、通信インフラの整備状況に関する指標。世界銀行 (WB) と国際電気通信連合 (ITU) のデータより算出している。インターネットユーザ数、モバイルユーザ数、アクティブなモバイルブロードバンドユーザ数、固定ブロードバンドユーザ数という4指標の平均に基づき出されている。
- HCI (Human Capital Index) は、各国の電子化かかる人的資本に関する指標。国際連合教育科学文化機関 (UNESCO) のデータより算出している。総入学率、就学期待年数、平均教育年数、成人 (15歳) 以上の識字率による4つから出される指標から構成されている。

上位3カ国

下位3カ国

EDGIの平均値			
カリブ	中米	大洋州	世界平均
0.5826	0.5823	0.5106	0.5998

## 【CARICOM諸国の特徴】

- EGDIの内訳である、OSI、TII、HCIを見ると、TIIとHCIの数値はどの国も比較的高いが、OSIが一部の国を除いて、0.500を下回っている国が大半であることが分かる。すなわち、電子政府化が進んでいない理由は、インフラではなく行政手続きに課題があることが推測される。

国名	電子政府ランキング				
	順位	EGDI	OSI	TII	HCI
アンティグア・バーブーダ	98	0.6055	0.4471	0.6176	0.7518
バハマ	73	0.7017	0.6765	0.6739	0.7546
バルバドス	62	0.7279	0.5765	0.7523	0.8549
ベリーズ	136	0.4548	0.2647	0.4079	0.6919
ドミニカ	99	0.6013	0.4471	0.6871	0.6698
グレナダ	102	0.5812	0.3412	0.5449	0.8576
ガイアナ	129	0.4909	0.4647	0.3619	0.6462
ハイチ	180	0.2723	0.1882	0.2449	0.3839
ジャマイカ	114	0.5392	0.3882	0.5151	0.7142
セントクリストファー・ネイビス	95	0.6352	0.3941	0.7080	0.8035
セントルシア	112	0.5444	0.3824	0.5302	0.7205
セントビンセント・グレナディーン	109	0.5605	0.4706	0.4894	0.7214
スリナム	122	0.5154	0.2882	0.5482	0.7098
トリニダード・トバゴ	81	0.6785	0.6118	0.6803	0.7434